



文化人表彰

八尾 住人

つう
東わ光

八尾市も市制十周年の記念を迎えたと聞いて、僕は感無量だ。

僕は厳密にいふと昭和二十六年九月に八尾中野の天台院に特命住職として発令されたが、東京の家を片付けて移つて来たのは十一月の末だった。それから天台院の修築にとりかかつて、まだ壁も半乾きのままのところへ入つたのが、忘れもしない十二月三十日だった。あくる日、二十六年の除夜の鐘を鳴らしたのであつた。

尤も絶えて鳴らしたこともない半鐘を叩いたので、駐在所と消防署から真夜中に駆けつけられるといふ騒ぎの一幕があつたが、かうして二十七年の元旦を迎えたのである。

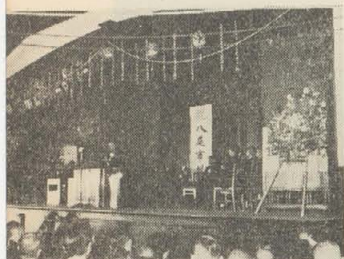
僕の任命書には河内国若江郡八尾中野村と書いてあつたが、移住して来たときには八尾市となつてゐた。そのうちに附近の町村合併で人口十万人の八尾市に発展した。

大阪をめぐる衛星都市の中で唯一一つの黒字健全財政を誇る八尾市は、下世話にもいふ金持ち喧嘩せずで、まことに平穩無事な田園都市だ。政争もなく、大事件もなく、河内人は黙々として働いてゐる。それでは彼等は底抜けの凡人かといふと、楠公以来の強力なエネルギーを内に秘めてゐる。古来、河内の兵は強勇を誇つて来た。従つて彼等は敗戦にもさまたで混乱することなく河内の美田を守つて来たのである。初代市長の勝田さんが、

何度も選挙されて地方自治のために万丈の気を吐いてゐるのも注目して好い事実だらう。僕などは四選も五選もさまたげない。何日までも継続してやつてほしいと思ふ。

僕もまた天台院を永任の棲み家としてゐるのだ。従つて本籍をも移して仕舞つた。つまり戸籍上からも僕は河内人になつたのだ。僕が天台院の和尚になつて以来、わが天台院には珍客を迎えること屢々だ。恩師谷崎潤一郎先生はじめ文壇の諸名士が踵を接して来訪される。芸能人としては市川左団次君のほかいろいろの人が訪れて呉れた。河内の小庵は漸く東京でも人の知るところとなつて来たらしい。

僕が第三十六回直木賞を受けた時、市長さんから大きな鯛を贈られた。これが一番嬉しかった。東京の人に褒められるより河内の人に褒められる方が嬉しい。僕の檀家達もお祝ひしてくれた。これは親類以上のつきあひをしてゐる仲なので涙がこぼれる思ひだつた。そのうちに昨三十二年の文化の日には、文化人として表彰され記念品を贈られた。僕が文化人であるかどうかは疑問だが、八尾に僕みたいな癖のある根性曲りの坊主が居るといふことは、畢竟、八尾が住み心地が好いといふ証拠であらうか。河内平野は八尾市によつて更に発展するだらうと思ふ。八尾市の果す役割は今後益々大きな意味を持つだらうと考えてゐる。



市制施行祝賀式典



八尾市警察署完成



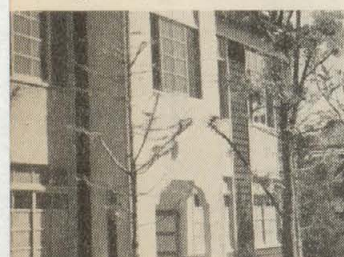
市立病院開院



ジェーン台風来襲



庁舎落成



公民館開館

23年

- 4月 市制施行（八尾町外4カ町村合併）
- 5月 市長，市議会議員選挙
- 10月 府教育委員会委員選挙

24年

- 4月 八尾市時報発行
- 5月 八尾警察署完成
- 6月 亀井保育所開所
- 8月 農業会館開館
- 12月 竹淵小学校開校

25年

- 2月 市民病院開院
- 4月 久宝寺火葬場完成
- 5月 高松宮殿下を迎える
- 7月 大阪市バス近鉄八尾駅前まで乗入近鉄八尾駅準急停車駅となる

- 8月 消防庁舎落成
- 9月 ジェーン台風来襲市行政機構改革
- 10月 国勢調査実施市立病院厚生省よりA級病院に指定さる。
- 12月 関西本線八尾駅快速車停車駅となる

26年

- 2月 市庁舎（鉄筋コンクリート3階建）落成
- 2月 公民館開館
- 6月 自治振興委員会結成
- 7月 水害竹淵地区一帯を襲う
- 9月 西郷母子寮，同保育所開所
- 11月 市立病院結核病棟完成

27年

- 1月 八尾水源第1次拡張工事完成
- 2月 市営住宅30戸建設
- 5月 市長，市議会議員選挙市議会議員定数30名に減員
- 9月 八尾高全国高校野球大会甲子園で準優勝
- 10月 有功者待遇条例による有功者8名決る市制5周年記念式典挙行
- 11月 教育委員選挙山本・竹淵両出張所開所市立商工会館開設

28年

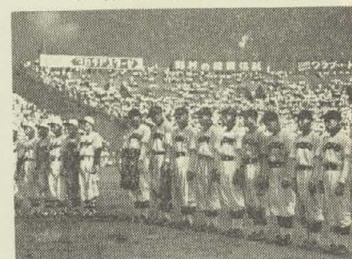
- 1月 八尾一花園間バス路線開通
- 2月 市立病院本館完成大正飛行場下げ関係市町村合同委員会結成
- 3月 八尾御坊自然崩壊
- 5月 市立養老院たちばな寮完成
- 8月 阪神飛行場米軍使用開始
- 9月 府道大阪一八尾線開通
- 10月 阪神飛行場地区日米合同連絡会発足
- 11月 ニクソン米副大統領市立病院前であいさつ米軍ヘリコプター一般に公開竜華小学校新築

29年

- 4月 緊縮措置条例制定
- 6月 市警察庁舎式
- 7月 市議会議員，教育



市営住宅30戸建設



八尾高準優勝



商工会館開設



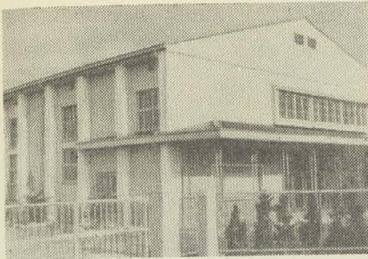
八尾御坊崩壊



ニクソン米副大統領あいさつ



米軍ヘリコプター公開



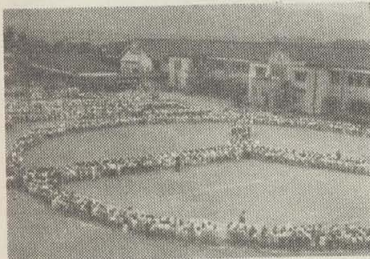
四 講 堂 完 成



高松宮市立病院をご視察



三カ町村合併調印



合併祝賀の人文字



合併により助役増員



八尾空航まつり

委員補欠選挙
阪神飛行場米軍使用解除

- 7月 阪神飛行場農地開放運動始まる
- 10月 公民館文部大臣賞を受ける
用和、安中、竹淵3小学校及び久宝寺中学校の講堂完成
- 11月 西郡保育所新築完成
- 12月 高松宮来市、市立病院をご視察

30年

- 2月 河内市との境界変更で、三野郷の一部編入
- 4月 3カ町村合併、市長市議会議員選挙
- 6月 八尾高にプール建設される
- 7月 飛行場農地解放決る
沢の川商店街にアーケード完成
- 9月 福祉事務所、水道課旧国警跡へ移転
- 11月 合併により助役2名に増員
府道西郷一植松線着工

31年

- 3月 信貴山登山道路整備
- 3月 八尾飛行場、民間空港として発足
- 4月 水道事業、公営企業法を適用
陸上自衛隊第3航空隊駐とん開始
- 5月 八尾空港まつり開かる
- 9月 住宅公園の鉄筋住宅建設

宅建設
私立清友学園市に移管、市立清友高校として発足

- 10月 太子堂交叉点に交通信号灯設置
山本球場市に移管
- 12月 組立八尾伝染病院（円型病棟）太子堂に完成

32年

- 1月 市立病院増築工事に着手
- 2月 長瀬川改修工事に着手
電報電話局新庁舎完成
- 3月 府下優良都市として府知事から受賞
信貴山ケーブル13年ぶりに復旧
- 4月 志紀町と合併
- 5月 市立病院看護婦宿舎完成
- 6月 市内の電話自動式に切替
台風5号来襲
- 7月 市立大正診療所開所、商工会議所新築成る
- 8月 高安水源地完成（全国初の二重濾過装置）
- 9月 南山本小学校新校舎完成
- 11月 市立弓道場開設
- 12月 庁舎増築工事地鎮祭挙行

33年

- 1月 上水道第2回拡張工事に着手
- 2月 高松宮妃殿下来市
清友高校外ご視察
- 4月 市行政機構改革



清友高校市に移管



山本球場市に移管



電報電話局完成



志紀合併祝賀式

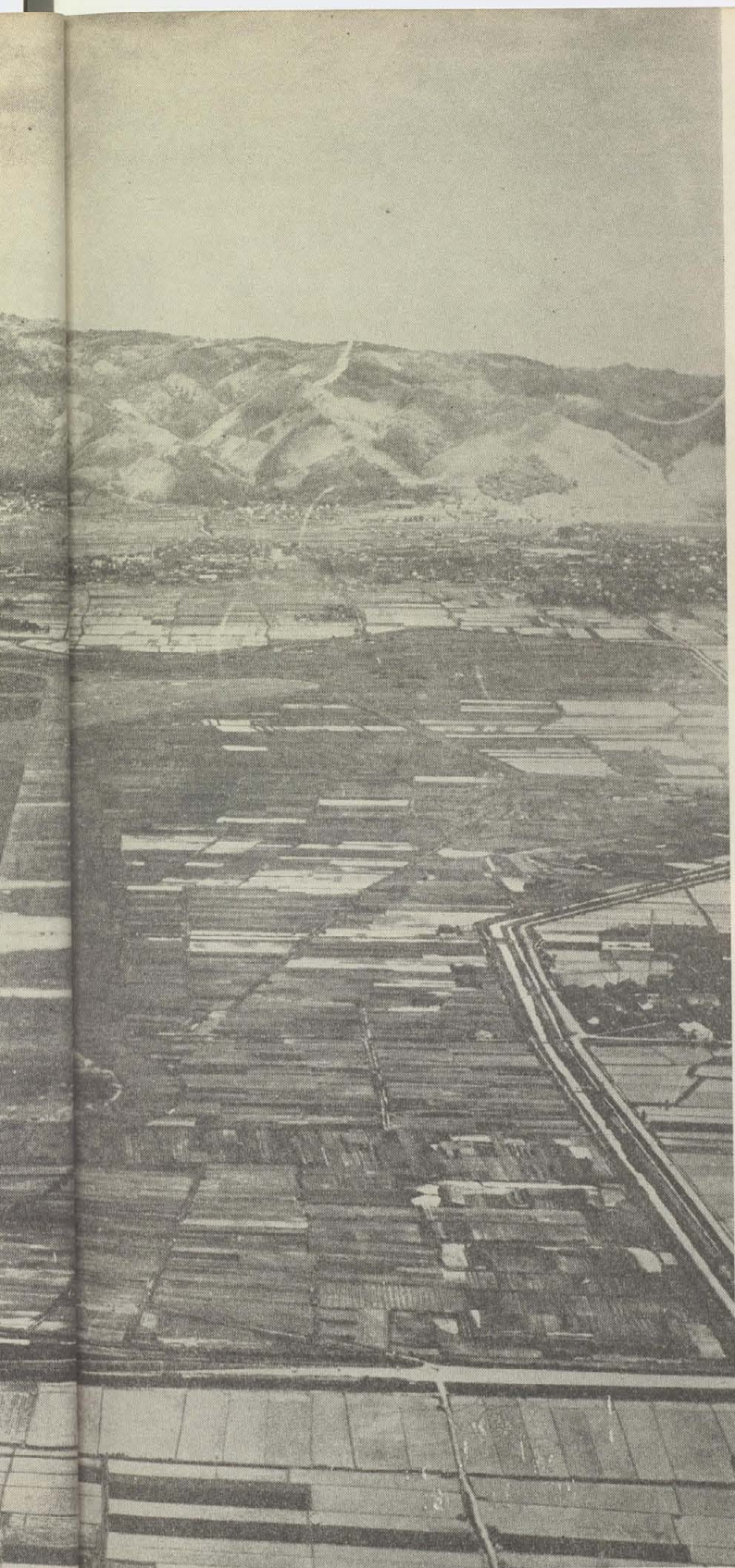


台風五号来襲



南山本小学校開校





八尾飛行場（南木ノ本）

全国初の民間航空基地となつた「八尾飛行場」は、昭和13年に「阪神飛行学校」として発足、昭和14年地名をとり大正飛行場と改称され、軍専用飛行場となり、付近の農地を強制収用の結果総面積85万6千坪に及ぶ東洋一の戦闘基地となり終戦を迎えた。

戦後は米駐留軍の連絡飛行場となり、ヘリコプター部隊が使用、その名も「阪神飛行場」となつたが、27年米軍と協定の結果、在阪各新聞社機などが飛行場の一部使用を許可され、30年5月に米軍は撤去、同7月に米軍から日本政府に返還された。

一方付近の農民は、長さ1千7百メートルの2本の滑走路と、これを結ぶ誘導路を除いた空地に農耕を始め「自衛隊の基地絶対反対」「飛行場を農民に返せ」などのムシロ旗を押し立てたデモ行進により農地解放運動が続けられ、市長も議会もこの払下げを陳情の結果、昭和30年10月衆議院大蔵委員会の裁定により「飛行場の機能を存置し、土地は原則的に払下げる」との決定をみた。

この結果50万坪は農地に払下げ、2本の滑走路を主体とした29万坪の飛行場は新たに航空局の手で7千9百万円が投じられ大巾な補修が加えられ、昭和31年3月末一切の施設を完了、同月31日に開所式が行われ、名称も正式に「八尾飛行場」と名づけられ全国初の民間航空基地となつた。設備は、2本の滑走路にはさまれた三角地帯の真ん中に管制塔、6百坪の格納庫、この両側につけられたフラットライトは格納庫前を照し、このすぐ横には100万燭光の航空灯台が夜空に八尾空港の位置を示している。

とりわけ、夜間着陸設備は全国で初のもので、進入角指示灯の設置のほか主滑走路に56灯の進入灯、滑走路灯、また誘導路には91個の誘導路灯が備えられ、航空局自慢の施設を誇っている。なお陸上自衛隊第3管区飛行隊が同飛行場の東部を使用している。



▼ 市の中心部（昭和27年撮影のもので
右に崩壊前の大信寺が眺められる）

▲ 東部高安地区の心合寺（しおんじ）
山古墳（前方後円墳）



(1

田
文
め

(2

鎮
定

①

②

③

④

⑤

重要文化財

(1) 木造十一面観音立像 1 軀

(所有者) 恩智・神宮寺

明治45年2月8日国宝として指定を受けたが、文化財保護法制定により昭和25年8月29日、改めて重要文化財に指定された。

(2) 木造制札(文治元年12月とある) 1 札

(所有者) 神立・玉祖神社

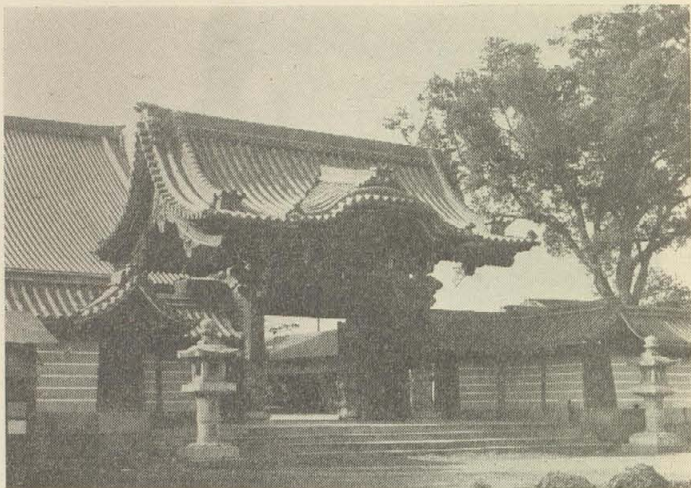
明治43年4月20日国宝として指定を受けたが、観音像と同じく法の制定により重要文化財に指定された。

府古文化記念物等保存顕証規則による指定物

指 定 物	指定年月日
① 木村重成の墓(史跡)	昭 4. 2. 6
② 恩智弥生式石器時代遺跡(史跡)	昭 18. 8. 23
③ 渋川神社の樟(天然記念物)	昭 24. 5. 9
④ 玉祖神社の樟(同)	同
⑤ 善光寺の樟(同)	同



木造十一面観音立像



顕証寺

は宝永7年4月に再建されたものである。

大信寺(八尾)

八尾別院又は八尾御坊と呼ばれ真宗大谷派の別院である。開基は本願寺第12世教如で徳川家廉の護持によつて慶長12年3月に建立された。本堂は棟行17間梁行15間、その広間書院庫裡太鼓楼等の大建物が聳えていた。書院の襖24枚は円山応挙の筆と伝えられている。天明8年正月本山本堂炎上の際はこの本堂を解体、京都に引移し、その後寛政11年12月還付され再び当地に建つた。同寺庭園は顕証寺庭園と共に書院庭として名高い。作庭年代は江戸初期と伝えられ、細長く広大な池泉を配し、これに橋が架けてあつた。昭和28年3月3日突如本堂大屋根が落ち今は往時をしのぶよすがもない。坪数は本堂255坪、総坪数3,265坪。

お速夜市

毎月11日と27日盛な露天市が行われている。この露天市は久宝寺御坊と八尾御坊との間数町に亘りお速夜市といわれこの両寺院に関係深いもので、お速夜は忌日又は命日の前日で例月27日は親鸞上人の速夜に相当し、両寺院ではその法要を盛大に厳修するので、近郷の善男善女が多く参詣し法話を聴聞する人が群集する処商人また集り沿道に店を張るよらになつたのであろう。この市は古く織田、豊臣の時代から続いているようである。



大聖將軍寺

顕証寺(久宝寺)

真宗本派の別院格で別名久宝寺御坊と呼ばれ、河内11郡の末寺を統轄していた巨刹である。その前身は西証寺と称し、蓮如第11男実順が住んでいた。処が実順若くして遷化し後嗣がなかつたので、享禄2年10月近江国大津三井寺の南別所近松の近松山顕証寺に在住していた蓮如第6男の蓮淳を寺号もろとも当地へ移り住せしめた。建坪総計965坪、近年まで後庭には江戸末期に作庭されたという茶屋含月軒があつた。堂宇

大聖將軍寺(太子堂)

草創は聖徳太子と伝えられ、俗に下の太子と呼んでいる。聖徳太子が物部守屋を御討伐の時この地で両軍が大激戦を演じた。守屋の軍勢は強く太子の軍は非常に苦戦に陥り太子の御身は危くなつた。丁度その時路傍に大きな椋の木があつたので、太子はこれに身を避けられ無事に難を免れられた。太子はこれを大変喜ばれやがてこの地に伽藍を建立、神妙椋樹山大聖將軍寺と名づけられたという。後数度の兵乱に伽藍は荒廃した明治21年の暴風に本堂は倒壊し全く旧觀を失つた。本尊は如意輪観音で室町初期の作と思われる。また、太子16才の聖容も奉安している。境内に老椋樹があり、附近には守屋の首洗池、守屋の墳がある。

常光寺(西郷)

臨済宗南禅寺派に属する禅刹で、本尊が地藏菩薩である所から、古くから八尾地藏という方が広く知られ、日本3地藏の1に数えられ古狂言にも八尾地藏の一作がある。聖武天皇の勅願により行基が建立し新堂寺と称した。この地藏菩薩の本尊は弘仁年間に小野篁が彫刻したもので寛治2年に白河法皇は本尊の靈験を聞かれ御参詣の時人面舍利を奉納せられた。その後戦火に堂塔は大破荒廃し、至徳2年7月、又五郎大夫藤原盛継はこれを旧に復した。明徳2年足利義満は当寺の住持通玄東堂に帰依し荘田、梵鐘、初日山及び常光寺の扁額を寄進した。これより旧号を改めて常光寺と称することになったという。天正17年には豊臣秀吉が病氣平癒祈願のため米5石を寄進し、また慶安元年8月徳川家光、寺領17石2斗余を寄進し、引続き歴代將軍より御朱印状を賜わつた。境内には八尾別当顕幸及び藤堂家臣71士の墓、八尾寺内村開発者森本行誓居士の供養塔がある。寺宝仏舍利、義満の扁額畠山氏三好氏の寄進状制札、応永6年の常光寺縁起、永正6年の勸進帳、嘉慶2年在銘の鯛



常光寺山門

口などがあり例年8月24日に大施餓鬼会を厳修し境内では地藏踊という大盆踊が行われ、河内の一名物となつている。

竜華寺大門跡(植松)

竜華寺は称徳天皇が神護景雲3年10月朔日に由義宮へ行幸の節遊覧せられ、当寺へ臨30石施入れた事が続記に見えている。草創は奈良前期と思われるが明らかでない。その後桓武天皇延暦19年に灯明料として若江郡の田1町5反を賜施されている。以後の竜華寺については史書では明らかではないが現安中小学校の辺に大門と称する地とその大礎石が2基田の中に千古の名残を留めている。

木村長門守重成之墓(西郡)

墓は西郡北の辻北端にある。碑石高さ3尺、台石高さ約2尺、周囲1丈2尺で南面し、碑石は角であるが、殆んど円味を帯びている。この碑石は彦根藩士安藤長三郎次輝が、重成150忌辰に菩提のため建てたもので、この先祖安藤長三郎重勝こそは、重成の首級を挙げた人である。慶長20年5月6日豊臣方の将木村重成は若江に陣を布き、徳川方の側面攻撃に出た。徳川方の藤堂、井伊の両隊と西郡若江に激戦を展開し重成は藤堂隊を撃破し相当損害を与えたが、つづいて井伊隊の攻撃をうけ戦の疲労と衆寡敵せず、遂に重成は庵原助右衛門城昌の槍にかかり落馬し、安藤長三郎重勝すばやくその首をあげた。家康がこの首を実見した時ゆかしい伽羅の匂がしたので重成の用意周到さを歎賞したのは名高い話である。大正8年大阪府がこの戦跡に「此の附近重成奮戦之地」の標石を建てた。



西郷墓地にある切支丹墓碑

切支丹墓碑（西郷）

西郷共同墓地に一見、舟底型の碑がある。高さ2尺、幅1尺4寸8分、厚さ約7寸、表は平面で大体円味をしてその先端がやや尖っている。その上部に大きな十字架、下に横書でIHS、またMANTIOとあり、右側に天正10年壬午左に5月25日と刻んである。この頃は我国キリシタンの最盛期で墓碑は他所にも発見されたが、大体は板碑型立石か蒲鉾型置石で年代的に見ても元和、慶長期のものが多く、然るに本碑は舟底型で時代も一層古いので学界ではこれを珍重し重要美術品に指定された。若江城主三好義継の重臣池田丹後守は織田信長が若江城を陥れた後は信長の臣となり、若江、八尾両城の守護の任にあつた。この人は永禄6年洗礼を受けてドン・シメオンと名のつた程の篤信者で家臣も亦大多数信者になつたらしく当時八尾には大多数の信者があり、教会堂を設けて盛に集会していた事は明らかである。八尾では古くからバテレン屋敷という約200坪の地域がある。明治初年頃までは周囲に家が建つても、この土地だけは藪笹が繁茂していたようで、またこの地に次のような伝説が残っている。切支丹禁制の令厳しく教会堂も破毀せねばならなくなつたのでその鐘をこの地下深く埋没したが、不思議や夜が更けると地下で鐘がうらめしうに鳴り響いたといわれている。

環山楼（八尾）

八尾の豪族石田氏の設立した学舎で、その創立年代は明らかでない。享保12年に京都の碩学伊藤東涯も、この所に招かれて書を講じた。環山楼の名は高安山、をはじめ二上、金剛の連峰が遙かにこの楼を環つて一望の裡に在つて、勝景の亭館であるため東涯が名づけたものである。当時各地に郷学、私塾が創立せられ、宇野の含翠堂、久宝寺の麟角堂と共に、この環山楼が夫々学者を招いて、講筵を開き、世人の教導に資した。享保12年京都の碩学伊藤東涯が宇野の含翠堂に遊歴講説の時当地の石田利清その叔父利長、従弟可承、飯田通古などこの所に会してその来講を乞い講席を開いたのであつたが、この席に受講した利清をはじめ、その弟孝鳳などよく郷民の教化に努めた。翌々14年伊藤東涯はこれを偲び深い感慨の裡にこの楼記を贈つた。利清は当時21才で字は嘉右衛門義菴と号し賢明智策の才であり、弁舌を能くしその識才は郷党の間に名高く、郷土の子弟などはその徳風学識を慕つて教を乞い私淑する者多く、また俠風があつて理非曲直を弁ずるのに厳正無私であつたので人々再び争うことが出来なかつたという。また知名の学者を招いて講席を設け、或は共に書を繙いて郷里の馨鑣となつた。宝暦14年5月59才で歿した。

高安山(高安)

別名を鉢伏山といつて市の東端、奈良県に接する所にある。遠い昔から烽火として大和の都の守りにはなくてはならぬ山であつた。西の海(大阪湾)の様子の見張所でもあり、一旦事がある時は烽火を挙げて大和に報じたと伝えられている。しかし元明天皇の和銅5年正月、遂に取止めとなつたと伝えられている。頂上からは、大阪、六甲、神戸などが一望の下に望められ、昭和33年4月決定をみた金剛生駒の国定公園の一連として、市ではその山麓一帯の総合開発計画を進めている。

恩智神社(恩智)

大御食津彦命、大御食津姫命を祀る。創建は極めて古い大社である。文徳天皇嘉祥3年10月に贈正三位、清和天皇貞観2年正月27日贈従二位とあつて朝廷の信仰があつた。



恩智神社拝殿

神宮寺感応院(恩智)

恩智神社の神宮寺である。一名三宅寺ともいわれ、明治維新の際分離して1寺となつたという。本尊、11面観音立像(木造)は元国宝に指定を受けていたが、現在は重要文化財に指定されている。

高安城跡(高安)

天智天皇が5年に高安山に行幸あつて、この地の風光絶佳と大和の守りとして好適の地であることを考えられ、ここに城を築かれたのである。当城は国の守りと共に畿内の上税の貯蔵所にも利用され穀類、塩の保管に当つた。しかし夏から秋にかけて台風が甚しいので度々修理されたようである。天智8年8月城を修理。持統3年10月天皇行幸。文武2年8月城を修理。同3年9月城を修理。同大宝元年8月遂に高安城を廃止した。しかし次の元明天皇和銅5年に天皇高安城に行幸したとあるから城の役目はなくなつたが、城そのものは残つていたようである。その後の史書にはこのことが出ていない所からみると自然に朽ちて倒壊したものであろう。後年、永禄年間松永久秀ここに寨を築いて信長の軍を悩ましたという。今も高安山頂に城跡と伝えられる広場がある。

玉祖神社(神立)「祭神玉祖命。明王命」

玉造氏の祖先を祀る。十三峠の登り口に在り、境内に大樟があつて天然記念物の指定を受けている。延喜式によれば和銅3年の創建である。

菫光寺(玉祖神社の神宮寺)

真言宗、本尊は千手観音で老演僧正の作といわれ、老演僧正或時玉祖の神を夢に見、神体を刻むこれが千手観音である。寺宝に北条時政の制札がある。文面には「河内国菫光寺者、鎌倉段御祈禱所也、於寺並田畠山林甲乙人等不可有乱入妨之状如件」とあり、文治元年12月の日付があり元国宝の指定を受けていたが、現在では重要文化財として指定されている。

十 三 峠 (神 立)

神立から奈良県に至る路傍に十三塚があり、そのためこの名がある。昔は大阪から奈良へ出るには、この峠か、暗峠を通るか、或は大和川の岸を通るのが普通であつた。その中でもこの峠が竜田や法隆寺に出るの一番近い楽な道であつたので通行人が絶えなかつたという。今は木こりの他は通らないので淋れてしまつた。家族づれのハイキングコースには最適で、峠の眺望は絶佳である。

水 呑 地 蔵 (神 立)

神立から十三峠への途中に石の地藏尊が祀られている小堂がある。昔、この峠が通行人の多かつた頃、茶屋のあつた所で、その茶屋には清らかな水の湧く泉があつて旅人を喜ばせていた。その水が何時の頃からか薬水で脚気には大妙薬ということが伝えられ、地藏に詣でて、その薬水をもらい病人に与えるようになり、今も参詣人が多い。



由 義 の 宮 跡

由 義 宮 跡 (八尾木)

称徳天皇は弓削郷に行幸され、この土地の美しさを愛されここを中心に都を造ることを命ぜられた。大県・若江・高安の3郡に亘る広大な土地が開かれて由義宮が造営された。そして河内職が置かれた。これを西京という。宝亀元年正月、河内職に命じて土地の70才以上の老人をねぎらわれた。間もなく天皇は崩御されて由義宮は僅かに6年であつたという。

五 条 の 宮 跡 (田井中)

田井中の北部にある小さい塚で ささやかな祠がまつられている。元、田井中の部落がこの地

にあつたといわれている。度々の大和川の氾濫に、田井中は今の地に「村づくり」をしたのであろう。奈良朝の頃には竜華寺に相当する大きな寺があつたと想像される。この地より掘り出された礎石、土器、古瓦等により当時を偲ぶことが出来る。

その境域に郷民の産土神として五条神社が祀つられ、これを中心にかかなり大きな部落がいつともなれたことが窺がわれる。今も五条千軒という言葉が残り、地名に五条垣内、大門、段の下等呼ばれる地が1,000坪以上に上つていることによつても知れる。明治の晩年まで直径6尺に及ぶ銀杏の大木や老松があつて、昔の宮跡の名残を留めていた。かの天保の義士大塩平八郎の同志の筆頭、渡辺良左右衛門の自刃の跡がある。

名 簿

市 長

順 位	氏 名	就 任	備 考
三 代	脇 田 幾 松	昭 30. 4.30	

助 役

四 代	熊 又 賢	昭 30.11. 1	
五 代	古 藤 敏 夫	昭 31.12.25	

収 入 役

三 代	森 倉 政 治	昭 33. 2. 1	
-----	---------	------------	--

固 定 資 産 評 価 員

	田 坪 弘	昭 32. 4. 1	
--	-------	------------	--

市 議 会 議 長

七 代	羽 多 野 与 久	昭 33. 4.18	
-----	-----------	------------	--

市 議 会 副 議 長

七 代	金 井 三 次 郎	昭 33. 4.18	
-----	-----------	------------	--

市 議 会 議 員

議席	氏 名	住 所	生年月日	職 業	電 話 番 号
1	貴 島 正 男	楽音寺 520	明 32.10.22	農 業	八 尾 8,030
2	谷 口 安 吉	穴 太 390	明 36. 4.30	会 社 社 長	八 尾 2,237
2	金 井 三 次 郎	久宝寺 2,340	明 28. 6.26	無 職	八 尾 4,867
4	樋 口 義 三	福万寺 1,552	明 37. 7.18	会 社 重 役	八 尾 3,413
5	御 内 幸 次 郎	久宝寺 2,597	明 35.10. 2	農 業	
6	中 谷 浅 吉	亀 井 235	明 25. 4.15	会 社 社 長	大 阪 ⑩ 0491
7	田 中 恒 太 郎	中 野 290	明 36. 2. 5	木 工 業	八 尾 3,871
8	畑 中 正 一	恩 智 1,208	大 3. 9.23	会 社 社 長	八 尾 7,017
9	日 吉 政 男	木ノ本 434	明 41. 2. 3	会 社 員	八 尾 3,909
10	島 野 寅 次 郎	安 中 405	明 29. 1. 6	金 物 商	八 尾 4,135
11	植 田 藤 三 郎	太 田 1,520	明 19. 9.24	農 業	八 尾 3,065
12	当 内 富 三 郎	山 畑 388	明 36. 5.15	米 穀 販 売	八 尾 8,004
13	森 山 歳 太 郎	恩 智 307	明 31. 2.10	農 業	八 尾 7,147
14	田 代 八 郎 治	萱 振 1,347	大 8. 4.12	無 職	八 尾 4,357
15	中 西 政 太 郎	太 田 1,555	明 23.11. 5	生 魂 塾 長	八 尾 2,550
16	和 田 一 二	西郡1,221ノ1	明 42.11.11	花 緒 製 造 卸	八 尾 3,575
17	小 池 十 太 郎	西 郷 1,029	明 29. 9. 5	書 籍 販 売 業	八 尾 2,841
18	斉 藤 俊 一	山 畑 349	大 4. 2. 5	八尾商工会事務局常任	八 尾 4,165
19	黒 川 竹 一 松	山 本 438	明 27. 1.15	無 職	八尾(呼出)3,402 (商工会)
20	山 田 千 代 三	庄ノ内 32	明 36. 9.25	会 社 員	八 尾 4,226
21	羽 多 野 与 久	八 尾 96の2	大 2. 7.20	会 社 重 役	八 尾 2,815
22	浜 田 昌 雄	植 松 1,384	明 43. 9.25	会 社 重 役	大 阪 ⑩ 8,708
23	中 西 喜 三 郎	木 戸 275	明 36. 2.11	凍 豆 腐 製 造 卸 業	八 尾 3,250